

田代山&帝釈山山行報告

【山行日】2021年6月20日(日) 曇り後晴れ

【集 合】栃木市運動公園P AM 5:00

【費 用】マイカー2台 : 2,700円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL大西 青柳、安西
植竹、小松原、島田、関、並木、廣瀬、福島、
藤原、渡辺

【コースタイム】栃木市運動公園P5:00＝猿倉登山口

P7:35/7:55～小田代湿原 9:10～田代山避難小屋

9:40/9:50～帝釈山 11:10/11:20～田代山避難小屋

12:30/13:10～小田代湿原 13:50～猿倉登山口P

14:50/15:05＝栃木市運動公園P18:00



一昨年、昨年と計画したが雨で中止を余儀なくされ、3度目の正直でようやく登ることが出来た。花の百名山の田代山は人気の山で、13名の参加者が車2台に分乗して栃木市運動公園を出発す



る。東北道を北上し西那須野塩原ICで降り、国道400号線から国道352号線を進み舘岩から湯の花温泉を経由し、猿倉の北登山口駐車場でトイレを済ませる。北登山口からの道は廃路になっているようで、車に乗って南登山口駐車場まで移動し車を止める。準備を整えてストレッチを行ったら出発する。駐車場からオクラ沢に下りて橋を渡り、直ぐに急登が始まる。ブナやトチの大木の落葉樹の中を歩き、気持ち良く歩ける登山道だ。皆さんもまだ元気で、

会話が聞こえてくる。段々傾斜が急になると会話が途切れ、自然林の中をジグザグに登って行く。やがて左側の視界が開け、栃木県との県境尾根が見えるようになるが、山頂部は厚い雲に覆

われていた。ゆっくりとしたペースで登って行き、オオシラビソなどの針葉樹林帯になると、次第に緩やかな登山道になり小田代に着く。小田代は小さな湿原で、チングルマやタテヤマリンドウ、ヒメシクナゲ等の花が美しい。

ガスが掛かり見通しは聞かないが、小休止して果物を食べオヤツタイム。ここから標高差100mの急な道を登ると、登山道が木道となり田代山湿原の入口に着く。湿原はガスが掛かり見通しは効かないが、木道の両側にタテヤマリンドウやヒメシクナゲの花が群生している。湿原の木道は一方通行になっており、反時計回りで木道を進むと田代山山頂の標識が立ち、木賊温泉への道との分岐となる。



山頂標識の前で記念写真を撮り、分岐を左に進むと避難小屋に着く。板敷きの休憩スペースには



ベンチが並び、立派なトイレが整備されている。大休止して果物や菓子を食べ、エネルギーを補給し、トイレを済ませたら帝釈山へと向かう。

避難小屋の裏側へ回り込むように登山道があり、オオシラビソやダケカンバの原生林の中を下って行く。登山道の両側にオサバグサの花が見られるようになり、白い可憐な花が疲れを癒してくれる。まだ時期的に早いのか、数は多くないが皆さん初めての花に感動していた。一旦鞍部まで下るとまだ残雪が有り、ここから再び登りとなる。

このころから薄日が差すようになり、青空も見えるようになってきた。帝釈山が近づいてくると岩交じりの稜線になり、岩尾根が現れるとシャクナゲなどの灌木帯になる。大きな岩をハシゴやロープで越え、岩尾根を少し進むと帝釈山山頂に着く。山頂は狭いが東西にやや長く、360度の大展望が得られるが、まだ雲が多く会津駒ヶ岳や燧ヶ岳は見られなかった。山頂で記念写真を撮ったら下山し、往路を戻って避難小屋まで戻る。

板敷の休憩スペースのベンチに陣取り、お湯を沸かしてランチタイム。各自持参のカップ麺やスープと、おにぎりやパンなどを美味しくいただいた。お腹が満たされたら下山開始し、湿原の木道は右に下山専用道を進む。ガスが取れて空は明るくなり、タテヤマリンドウやヒメシャクナゲの花々が輝きを増していた。少し先に進むとチングルマの群生地が現れ、湿原の向こうには残雪の会津駒ヶ岳が白く輝いている。皆さんから「凄い～素晴らしい～」と歓声が上がり、しばし立ち止まって絶景を楽しんだ。往路ではガスで見られなかった景色を、復路では信じられない程鮮やかな展望に皆さん大満足の様子。分岐からは往路を下り、無事に登山口駐車場に戻った。下の駐車場まで移動し、トイレを済ませたら帰路につく。



途中、道の駅「たじま」に寄って買い物し、予定より30分早く栃木市運動公園へ帰着した。